

〔共済連だより〕

家畜診療日誌

「SA には注意・乳房炎は予防する病気」

生産獣医療支援センター 影山 毅

蒸し暑い季節になり、乳房炎の発生が多くなっています。乳房炎は乳牛における疾病の中で直接関わる乳腺に起きる疾病であり、経済的損失が非常に高くなります。

乳房炎の発生は分娩後 10 日間がもっとも多く、ストレスと夏季の高温多湿、牛の感染防御機能の低下が関与しています。

全国での経済的損失は年間 800 億円、1 頭当たり 87,000 円、1 戸当たり 200 万円、治療費は 1 頭当たり 7,000 円とされています。特に問題となるのは潜在性乳房炎であり、バルク乳中の体細胞数 (SCC) 低減のためには潜在性乳房炎対策が有効です。中でも SA (黄色ブドウ球菌) の伝染性乳房炎は農場内での感染拡大を防止するため、農場内への侵入を早期発見することが必要となります。SA による乳房炎の特徴はとにかく治り難い、伝染する、どこにでもいる、です。伝染は細菌が乳房内に進入し炎症を引き起こし、乳房内で大量に増殖し乳汁とともに環境中に出され、排出された菌が、搾乳作業などにより他の牛に広まっています。予防するには搾乳手袋の着用、前搾りの実施、清拭 1 頭 1 布、ポストディッピングの実施、過搾乳により乳頭をいためない、定期的な PL テストの実施、早期発見、早期治療です。

SA 保菌牛を常に把握することが必要で、もし SA が検出されたら感染牛は隔離するか、一番最後に搾乳、感染初期なら乾乳期治療を行う、慢性なら盲乳・淘汰を検討してください。SA の排菌をコントロールしながら新感染を防ぐことが最重要です。

乳房炎は予防する病気であって、治療はその次の問題であり、原因菌を知ることによって伝染性 (牛から牛へ搾乳機器を介す) か、環境性 (牛舎全体に広く存在する) を判別し予防対策に生かされます。

病原要因として細菌・搾乳衛生、環境要因として牛床・飼養管理、宿主要因として栄養・健康管理の 3 つで総合的な対策となります。

乳房の腫脹・硬結の著しい大腸菌による急性乳房炎に罹り、抗生剤の使用により回復しますが乳量・乳質は決して完全には戻りませんし、SA による慢性乳房炎では、乳房炎を繰り返し、出荷しようと思えば再発します。適切な治療である程度改善はできますが一時的なもので、それ以上に重要なことは感染牛を増やさない予防にあります。

乳房炎の対策において乳汁検査により、原因菌の特定と薬剤感受性が判り衛生費削減につながります。

最後に、乳房炎発症時の乳汁採取は原因菌の同定や抗生剤を選択する上で重要ですが、雑菌で汚染され検査がダメになります。正しい採取方法は殺菌剤で乳頭を清拭し、ペーパータオルで乳頭の水分を拭き取り、2~3 回絞り捨てた後固く絞ったアルコール綿花で乳頭口を消毒し、容器をできるだけ横にして容器の口に乳頭がつかないように採取する、採取量は 2ml で十分です。